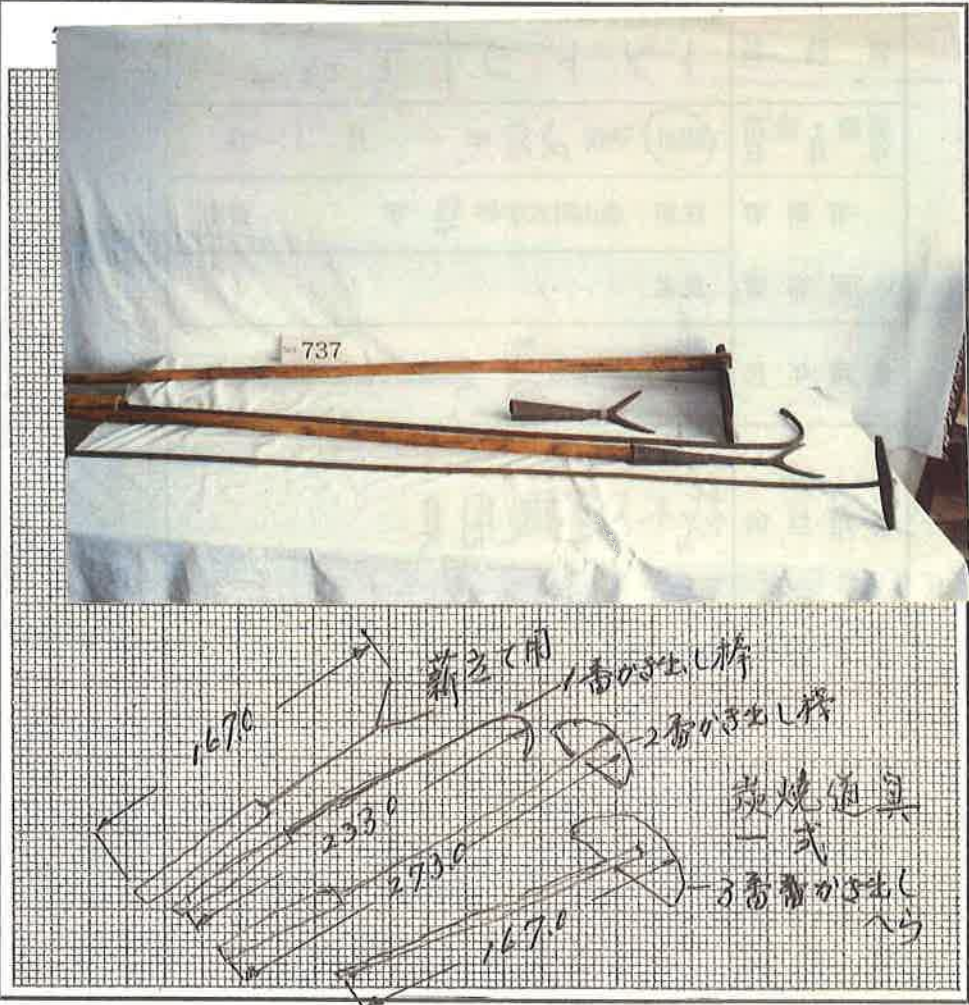


民俗資料調査カード

通番号	737	分類番号	220
-----	-----	------	-----

資料名	地方名(カタカナで記入してください) 標準名 スミヤキトウグー式 炭焼道具一式
寄贈・借用年 月 日	(昭和) 平成 28 年 月 日
寄贈者	住所 金山町大字玉梨 字 番地
所有者	氏名
使用年代	(明) 初年頃から (大) 末年頃まで使用・現在も使用中
使用目的	炭焼道具
収蔵場所	弥平民具館
備考	(四品一揃り)
調査年月日	平成 28 年 10 月 22 日
調査員	玉梨民具保存会



その他

製作地		(使用方法の写真、または使用方法の説明)
製作者		
材料		
製作時期		
購入先 (購入地)		
年号 焼墨 等		<div data-bbox="1272 491 1839 896" data-label="Text"> <p>白炭焼き 一 窯造り 山の斜面を板積(三メートル)側(ハイトル)側(ハイトル) 二 上部(口)は粘土 三 奥に煙出口をつくる 四 上部(口)は黒炭窯と同じにする 五 一週間に一度木をあげる 六 窯造り小屋掛けなど五人役位 一 木入れ 窯口についてまた木を從 二 火入れ 窯口で半日位木を焚く 中の木に火がついた煙まじりや窯口を小さくして一日位蒸し焼きにする 一 炭にならないうちの少しづつ空気を入 炭が真赤にならないうち少しづつ炭を出す 一 毎日炭を出す日窯もありました</p> </div> <div data-bbox="1272 960 1839 1366" data-label="Text"> <p>黒炭焼き 一 窯造り 普通窯積(三メートル)側(ハイトル)側(ハイトル) 二 奥に煙出口をつくる 三 窯の上部(口)は木型をつくりその上は粘土の玉を打ちつける 四 窯の中(口)は燃やし、はりの粘土を打ちながら乾かす(十五日位) 五 完全には乾いたら窯の中の木型を燃やして窯は木を上げる 六 窯造り小屋掛け等五人役位 一 木入れ 窯の中に入り下は從(三メートル)木を焚く 二 火入れ 窯口で一日位火を焚く 一 中の木に燃かした頃を見計り煙出口を焚く 二 中(口)を少し小さくして三四日位蒸し焼きにする 一 炭が真赤にならないうち少しづつ炭を出す 一 炭が冷めたら中に入れて炭を出す</p> </div> <div data-bbox="813 834 1205 1401" data-label="Text"> <p>炭焼き道具 昭和三十年頃までは炭焼き、はこの地方の現金収入のための大切な産業でありました。遠くの方々から炭を焼く白い煙が見えたものでした。これは堅炭焼きの道具です。</p> </div>